ページ一覧

[タイトル]

[目次]

[システム概要]

[ペルソナ]

[ユーザーの利用目的]

[グラフ]

[意図する導入効果]

[活用技術紹介]

[動作デモ]

[成果物品質報告]

[集客に向けた取り組み]

[ユーザー数の遷移]

[反省点]

[今後の展望]

[タイトル]

ではプロジェクトMediceNote開発班の発表を始めさせて頂きます。

メンバー構成は、リーダーの宮田、サブリーダーの河原、メンバーの梅崎・田中・山本 の計5人で、進めて参りました。

[目次]

今回の発表の進行についてはこのように進めて参ります。

では早速ですが、システムの概要の説明に移らせて頂きます。

[システム概要]

当システムは、「お薬手帳」をwebで管理する事ができるようにするwebアプリケーションで、

病院で処方されているお薬の管理ですとか、LINEへの通知による、飲み忘れの防止を提供するものとなっております。

[ペルソナ]

では次は、ペルソナについてです。

ターゲットとしているのは、薬の飲み忘れが多い人や、多数の処方を受けており、薬の管理が煩雑で困っている人、また、家族の薬の管理に不安がある人などを、想定しております。

[ユーザーの利用目的]

では次に、ユーザーが利用する目的についてお話しして行きます。

まず、多くの方には基本的な使い方として、薬の飲み忘れを予防する目的で使っていただければと考えております。

また、現代では多くの薬を日常的に服用している方が少なくないというお話を耳にしまして、

こちらをご覧いただきたいのですけれども、

[グラフ]

平成28年の情報によると、当然、高齢者の方は多くの種類の薬を飲んでいるという傾向はあるのですが、それ以外の年齢層でも、約5%から10%の方が7種類以上もの薬を服用しており、

そういった方々にとっては、飲む薬が変わったり、溜まった薬が何の薬か分からなくなるなど、薬の管理が大変だという事が多いのではと考えました。

実際にメンバーにもそれで困った経験があるという者もおりましたので、そういったことから、幅広い年齢層の方に利用していただけるように作成したシステムとなっております。

[意図する導入効果]

次に、意図する導入効果ですが、

薬の管理の簡略化と、スマホから通知を行う事による飲み忘れの防止といった点になります。

[活用技術紹介]

では、使用している技術の主なものを簡単に紹介させていただくと、

アプリケーションサーバにはGCPのCompute Engineを利用して、インスタンス上にNginxやMariaDBを構築しています。

Nginxはリバースプロキシとしても動作しており、これを経由して、フレームワークとしてKoa.jsを使用したNode.jsアプリケーションでリクエストを処理させています。

また、開発の環境には、主にWebStormを利用いたしました。

[動作デモ]

[成果物品質報告]

では、成果物の品質についてお話ししていきます。

こちらが結合テスト以降に発見されたバグと、それらへの対処を一覧に記録したものなのですが、

この通り、結合テスト以降で発見されたものは全体で5件のみでしたので、非常にバグは少なかったと考えております。

このことから、成果物の品質としては十分なものを作る事ができたのではないかと思っております。

[集客に向けた取り組み]

では成果物については以上とさせていただきまして、集客に向けての取り組みについてのお話に移らせていただきます。

集客に向けては、TwitterとFacebookを利用したwebアプリの宣伝を行なっております。

また、現在はまだ投稿できておりませんが、今回開発のために学習した内容をQiitaに投稿する予定でおりますので、これらを通して当アプリを訪問していただければと考えております。

加えて、麻生の生徒の方々にも興味を持っていただけるよう、ポスターを作成して、校舎内に掲示させていただくことを予定しております。

もし今後、当アプリのポスターをご覧になられましたら、目を通していただいて、もしよろしければ使ってみた感想なども頂けましたら幸いです。

[ユーザー数の遷移]

では次に、ユーザー数の遷移についてなのですが、こちらは残念ながら、まだどなたにも利用していただけていないと状況になっております。

google analyticsで確認したところ、37件のアクセスは確認できたのですが、開発メンバーのテスト用のアクセスが大半だろうという点と、会員登録していただけている人数は0人だという点を合わせて、サイト自体への訪問件数も0に近い数ではないかと認識しております。

原因と対策については、また後ほどお話しさせていただきたいと思いますが、現状としては、

webアプリの存在が認知されていないという状況ですので、非常に残念な結果ではありますが、当然の結果でもあると考えております。

また、ユーザー体験と機能の兼ね合いの面では、薬登録の際の入力項目が多くなってしまっているため、スマートフォンでの利用が少し難しい状況となっている事が問題だと考えております。

このようなユーザーが管理をする形のアプリでは、継続して利用し続けるのが面倒だという事がとても大きな課題となると思うのですが、その点を考慮できていなかった事もまた、別の問題として考えております。

[反省点]

次に、全体の反省点です。

開発の中での反省点はここに書いているようなものとなっております。

また、前期開発の目標となっている、利用者数の増加を目的とした対策を行っていくという観点では、

集客のための取り組みが適切に行えなかった事が、最も大きな問題であったと考えております。

問題の内容は、開始時期が遅くなってしまった事と、効果的にSNSの運用ができていない事の2点で、TwitterとFacebookの投稿開始日は8月3日からとなっており、その他のポスターや技術記事の投稿はまだ行えていないという状況ですので、多くの方々に当システムを認知していただくためには、期間としても宣伝する媒体の数としても不十分であったと考えております。

また、SNSのフォロワー数が0という状況ですので、ただ投稿するだけではなく、ハッシュタグを工夫したり、こちらから多くの方に投稿をみていただけるようなアクションを起こして行く必要があったのかなと考えました。

[今後の展望]

では最後に、今後の展望についてのお話をさせていただきます。

今後行おうと思っている取り組みは、webアプリの機能追加と集客対策の2点になります。

追加機能は、文字認識を活用してスマホのカメラで調剤明細書やお薬の袋を撮影するだけで、薬の情報を登録できるようにする機能を考えておりまして、

こちらを実装する事で、先ほどもお話しした、薬の情報の入力が面倒だという問題を解決して行きたいという思いで、追加を予定しております。

集客対策については、まずは投稿の頻度を上げてより多くの方に見ていただくきっかけを作るという点と、興味を持っていただけそうな方には、こちらからフォローしていくなどして、より積極的に活用をしていきたいと考えております。

また、まだ実施することが出来ていないQiitaへの投稿や宣伝ポスター貼りについては、現在準備を進めているところですので、まずはできる限り早期の実施を目標にして、その後は課題などを探して、これからも改善を続けて行きたいと考えております。

以上で、プロジェクトmedice-note開発班の発表を終わらせていただきます。

ご清覧ありがとうございました。